

平成26年度

事務事業評価表 A (平成25年度の実績評価)

記入年月日
平成 26 年 4 月 1 日

事務事業名		国指定史跡真壁城跡保存整備事業				区分		事務事業No.	30513305		
						<input checked="" type="checkbox"/>	分野別主要事業	課内No.	5		
		政策体系上の位置付け				<input type="checkbox"/>	未来プロジェクト事業	主管課			
政策体系	総合計画の施策名	305	文化財の保存・活用			<input type="checkbox"/>	市長マニフェスト事業	所属部	教育委員会		
	政策名	3	豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり			<input type="checkbox"/>	合併建設計画事業	所属課	文化財課 33		
	施策名	5	文化財の保存・活用			<input type="checkbox"/>	新規事業	<input checked="" type="checkbox"/>	継続事業	課長名	石川文雄
	基本事業名	1	文化財の保存			<input type="checkbox"/>	単独事業	<input checked="" type="checkbox"/>	補助事業	グループ	文化財G
		財務会計上の位置付け				事業期間		担当者名	宇留野主税		
予算科目	会計	款	項	目	事業	一般会計		<input type="checkbox"/>	単年度のみ		
	1	10	5	7	1	史跡等保存整備事業		<input checked="" type="checkbox"/>	単年度繰返し (平成9年度～)		
法令根拠	文化財保護法						<input type="checkbox"/>	期間限定複数年度(年度～年度)			

[Do] 1. 事務事業の現状把握(その1) → 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入

(1) 事務事業の概要・手段・目的・結果と各指標

手段	① 事務事業の概要(事務事業の内容)		② 担当者が行う業務の内容、実際に行った主な活動	
	国指定史跡真壁城跡の保存・活用を目的とした国の補助事業 史跡真壁城跡地内の発掘調査を実施し、成果を真壁城跡整備検討委員会で協議し、保存整備工事内容を決定する。保存整備工事は地形の保護・復元等を実施。 事業は外曲輪(外周部)から本丸(中心部)へと進め、見学者に常時公開して、住民の理解を図る。		史跡真壁城跡整備検討委員会を開催し、決定事項にしたがって整備工事及び発掘調査を実施する。 保存整備工事:外曲輪Ⅳの堀 発掘調査:中城調査、二の丸調査	
目的	③ 対象(誰、何を対象にしているのか)		⑦ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
	真壁城跡		ア 真壁城跡面積	
	④ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑧ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
発掘で歴史的資源価値を高め、復元工事により、保護・公開・活用促進する。		ア 発掘調査完了面積		
		イ 保存整備完了面積		
結果	⑤ 結果(どんな結果に結び付けるのか)		⑨ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	
	歴史公園の整備により、教育、観光資源として桜川市の魅力を高める。		ア 文化財を大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合	

(2) 指標値の推移

区分	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
⑥活動指標	ア m ²	0	0	0	1,000	1,000	1,000	1,000
	イ m ²	3,000	630	1,280	20	20	20	20
	ウ							
⑦対象指標	ア m ²	125,251	125,251	125,251	125,251	125,251	125,251	125,251
	イ							
	ウ							
⑧成果指標	ア m ²	29,833	29,833	29,833	29,833	30,333	30,333	30,833
	イ m ²	28,728	29,358	32,533	32,533	35,708	37,208	38,708
	ウ							
⑨上位成果指標	ア %	89.9	89.5	89.8	90.0	90.0	90.0	90.0

(3) 投入量(事業費)の推移

区分		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
事業費	国庫支出金	千円	7,745	8,031	11,050	8,500	8,500	8,500	
	県支出金	千円							
	地方債	千円							
	使用料・手数料	千円							
	その他	千円							
	一般財源	千円	7,746	8,180	11,071	8,909	8,909	8,909	
事業費計(A)	千円	15,491	16,211	22,121	17,409	17,409	17,409	17,409	
人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	
	述べ業務時間	時間	1,739	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	
	人件費計(B)	千円	5,287	5,128	5,128	5,128	5,128	5,128	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	20,778	21,339	27,249	22,537	22,537	22,537	22,537
事業費の内訳	25年度事業費実績(千円)	26年度事業費 予算(千円)	27年度事業費 計画(千円)	28年度事業費 計画(千円)	29年度事業費 計画(千円)				
	人件費	9,099	10,807	10,807	10,807	10,807	10,807	10,807	
	報償費	210	225	225	225	225	225	225	
	旅費	8	40	40	40	40	40	40	
	需要費	1,663	1,146	1,146	1,146	1,146	1,146	1,146	
	役務費	32	40	40	40	40	40	40	
	委託料	1,005	1,286	1,286	1,286	1,286	1,286	1,286	
	使用料及び賃借料	150	1,397	1,397	1,397	1,397	1,397	1,397	
	工事請負費	9,954	2,369	2,369	2,369	2,369	2,369	2,369	
	原材料費		99	99	99	99	99	99	
	合計	22,121	17,409	17,409	17,409	17,409	17,409	17,409	

(4) 当該年度の実施内容

※ 下記に該当する事業は年度ごとの事業内容を記入する	26年度の事業内容	27年度の事業内容	28年度の事業内容	29年度の事業内容
	案内板等設置工事(本丸、外曲輪)、発掘調査(中城)	案内板等設置工事(外曲輪)、発掘調査(中城)	案内板等設置工事(外曲輪)、発掘調査(中城)、保存整備計画策定(第3次)	保存整備工事(中城)発掘調査(二の丸)
分野別主要事業 未来プロジェクト事業 市長マニフェスト事業 合併建設計画事業	→			

事務事業名	国指定史跡真壁城跡保存整備事業	事務事業No.	30513305	所属課	文化財課
-------	-----------------	---------	----------	-----	------

[Do] 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	平成6年に真壁城跡が国指定になり、保護・活用を図るため、平成9年度から国庫補助、県費補助を受けて開始。発掘調査が進み、遺跡の状況が把握できてきたため、調査効率が開始時と比して著しく向上している(30~50%費用・労力減)。外曲輪工事が完了に近づき、真壁伝承館歴史資料館での展示の効果もあって、歴史・観光資源としての価値が高まり、雑誌や歴史書籍で取り上げられる機会が増加しており、桜川市の魅力を伝える資源価値は確実に向上している。
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	歴史公園として早期の公開・活用を望む。 真壁伝承館歴史資料館をはじめ、周辺の歴史資源と連携した歴史講座や活用事業を増やして欲しい。

[See] 2. 評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

評価項目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 真壁城跡の保護と活用に繋がり、桜川市の魅力を高める。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？)(法定受託事業はその名称)
有効性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 国指定の市有財産であり、歴史景観をわかりやすく復元して価値を高め、茨城県を代表する城郭遺跡として、最大限活用する必要がある。
	③対象・意図の妥当性 (対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？)
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である 発掘調査及び保存工事を最小限の労力・費用で最大限の効果がはかれるよう実施している
効率性	④成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない 発掘調査区の設定や工事の手法を多様な視点から検討し、効率化と最大限の効果がはかれるように活用している。
	⑤廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
公平性	<input type="checkbox"/> 影響無 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 公開・活用ができなくなり城跡の価値が生かなくなる
	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業と統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む))
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段が無い 具体的な手段、事務事業名 類似事業は無い <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる
公平性	⑦事業費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など))
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 整備工事については、競争入札で工事価格を決定するとともに、発掘調査については、市の規定により臨時職員を雇用しているため、経費の削減の余地は無い。
公平性	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 (やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？)
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 発掘調査については、専門的見地が必要のため、専門職員が担当しており、委託すると数倍の経費が必要になる。
公平性	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 真壁城跡は、市有地である。工事の成果については、市民に一般公開されているとともに、発掘調査については、調査の過程で市民対象に現地説明会を実施している。

[Plan] 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																							
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	整備計画では平成28年度までに一般公開をはかり、外曲輪整備を完了させ、公開活用をはかる予定である。しかし、東日本大震災以前から計画が2~3年程度遅れ気味であり、震災後は予算の削減もあって全体に5年程度は遅滞している。しかし、真壁城の知名度が向上し、真壁伝承館との連携が図れるから、目的を再設定のうえ、外曲輪の公開活用を優先し有効性を改善する。中城は引き続き発掘や歴史講座で学術価値と知名度を向上させ、工事で歴史景観をわかりやすく復元する。																							
(3) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果(終了・廃止・休止の場合は記入不要)																							
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	<input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 (複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																							
(3)-1 改革改善策	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
整備工事が長期間に及んでおり、H8年度に策定の基本計画で定める短期目標H28年度に目途に、公開活用を主とした計画に再調整を行うことが必要。																								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																								
H8年度に策定の基本計画で定める短期目標H28年度に目途に、事業成果の公表を行う。事業の遅れや整備事業継続の内容は、文化庁、関係機関と再調整を行う。																								

[Check] 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価	確認欄
<input type="checkbox"/> B A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	<input type="checkbox"/>